

令和4年度京都府PTA指導者中央研修会（実施報告）



日時：令和4年7月14日（木） 13:00～15:30

会場：国立京都国際会館

スローガン：「未来につなぐPTA」 ～変わりゆく社会の中で今できること～

新型コロナウイルス感染症の再拡大が心配な時期ではありましたが、約660名の方に参加いただきました。



◇内容

（1）実践発表

「変化する組織に人は魅力を感じる」 ～今の時代、子どものためだけのPTAではもったいない～
発表 八幡市立橋本小学校PTA 清水 省三 様

感想紹介

PTA組織変革の必要性は感じていたが、具体的にどのように進めていけばよいのか分からなかったので、今日は本当に「目からうろこ！」でした。ここまでできるのだと、大変参考になりました。

「この町に住みたいと思える環境を小学校中心に作ってあげたい」という話が印象的でした。小規模化が進む本校でも、地域と連携した取組を考えていきたいと思いました。

誰もが参加しやすいPTAの組織改革を進めながら、子どもも参加できる仕組みを作られていることがとても参考になりました。



（2）講演

「多様性を重んじる教育には何が必要なのか」

講師 京都精華大学前学長 全学研究機構長 ウスビ・サコ 様

とても刺激の多い話で、今の時代と教育について改めて考えてみたいと感じさせられました。日本の教育が「答えを教える教育」というのは耳が痛かったです。「想像する教育」「考える教育」のためには何をすべきなのか、これから考えていきたいと思いました。



自分の今までの考え方に偏りがあり、多様な見方ができていないと感じました。親としての考えを子どもに押し付けたくない、子どもの思っていることを聞いていきたいです。

「自信のなさの裏返しは排他的」というお話に、「なるほど」と思いました。

実践発表、講演ともに大変好評でした。研修で学ばれたことを、ぜひ、これからのPTA活動や家庭教育に生かしてください。

また、アンケートの御提出ありがとうございました。貴重なご意見として参考にさせていただきます。